

長かった山火事

荘内小学校

五年

柿本

奈希羽

二〇二五年三月二十三日、岡山市で山火事が発生した。火は、山をこえて五野市へも、もえ広がった。ちん庄は三月二十八日、ちん火は四月十一日と、なかなか消えない山火事だった。

あたしの家から、火は見えなかったけど、出かけた時に、車の中からもえ上がる炎を見た。山に見える火と広がるけむりは、少し見えただけでもおそろしかった。

テレビや新聞では、毎日報道が続いた。ヘリコプターから水をまいたり、多くの消防車が出動したり、消火活動が続けられたが、火はおさまることなく、もえ広がった。五日後「ちん庄」と聞き、わたしは火事がおさまったと思い、ほっとした。

ところが今度は、消防士や消防団の人が、水をせ負って山の中を歩き、せん用の機械で火種を探し、掘り起こして消火する活動が始

まったと報道された。わたしは、「まだ、山
火事なの？」と不思議だった。火は土の中で
熱を持ち続け、再びもえるから、火種がなく
ならないと「ちん火」とならないことを知っ
た。消火活動は、とても大変なことだと気付
かされた。

山火事の原因は、ばっ採した木をもやした
ことだった。外で火をつけたら、確実に消え
るまで責任を持たなければならない。かんそ
うしている秋や冬は、特に注意しなければな
らない。風が強い時は、火を使うことをやめ
ることも必要だ。「ちよっ」とくらい大丈夫
の油断が火事につながる。わたしも、BBQ
の時は、外で火を使う。十分に注意しようと
思う。

二〇二五年は、山火事の報道が多かった。
その度に、三月の山火事を思い出し、早く消
えてほしいと願わずにはいられなかった。